

【今週の注目疾患】

【麻しん】

2019年第38週に県内医療機関から1例の麻しんの届出があった。2019年に県内医療機関から届け出られた麻しんは25例となった(表)。第38週に届け出られた麻しん症例に海外渡航歴はなく国内での感染と考えられるが、海外では麻しんが継続的に発生している地域もあり、海外からの麻しん侵入リスクは常に存在する。

表:2019年千葉県内の麻しん届出状況

No.	保健所	性別	年齢	病型	発症日	診断日	診断週	接種歴		遺伝子型	備考
								1回目(年齢)	2回目(年齢)		
1	野田	男	40歳代	麻しん(検査診断例)	2月5日	2月12日	7週	有	無	D8	渡航・滞在先(ラオス・タイ)
2	印旛	男	10歳代	麻しん(検査診断例)	2月5日	2月12日	7週	不明	不明	D8	渡航・滞在先(ベトナム)
3	市原	女	40歳代	麻しん(検査診断例)	2月5日	2月14日	7週	不明	不明	B3	渡航・滞在先(フィリピン)
4	市原	男	40歳代	麻しん(検査診断例)	2月14日	2月17日	7週	不明	不明	B3	No.3の家族、渡航・滞在先(フィリピン)、国内で家族内感染と推察
5	市川	男	10歳未満	麻しん(検査診断例)	2月17日	2月22日	8週	無	無	D8	渡航・滞在先(ベトナム)
6	安房	男	30歳代	修飾麻しん(検査診断例)	2月23日	2月24日	8週	有	2 無	B3	No.3の接触者
7	市川	女	30歳代	麻しん(検査診断例)	2月21日	2月26日	9週	有	不明	D8	
8	長生	女	30歳代	修飾麻しん(検査診断例)	2月25日	2月26日	9週	有	有	B3	No.3の接触者
9	君津	女	20歳代	麻しん(検査診断例)	3月4日	3月9日	10週	有	3 無	B3	渡航・滞在先(フィリピン)
10	印旛	男	30歳代	修飾麻しん(検査診断例)	2月27日	3月7日	10週	有	不明	-	
11	君津	男	30歳代	麻しん(検査診断例)	4月3日	4月8日	15週	不明	不明	B3	渡航・滞在先(フィリピン)
12	習志野	女	20歳代	麻しん(検査診断例)	4月8日	4月13日	15週	有*	有*	B3	渡航・滞在先(フィリピン)、ワクチン接種歴は記憶による
13	千葉市	男	20歳代	麻しん(検査診断例)	4月10日	4月15日	16週	無	無	B3	
14	山武	男	20歳代	麻しん(検査診断例)	4月15日	4月19日	16週	有	不明	-	
15	印旛	女	10歳代	麻しん(検査診断例)	4月20日	4月25日	17週	有	2 無	D8	
16	習志野	女	20歳代	修飾麻しん(検査診断例)	4月26日	4月27日	17週	有	3 無	D8	渡航・滞在先(カナダ)
17	印旛	男	20歳代	麻しん(検査診断例)	4月23日	4月28日	17週	有	無	D8	
18	習志野	男	30歳代	麻しん(検査診断例)	4月25日	4月30日	18週	無	無	B3	県外麻しん患者との接触
19	習志野	男	20歳代	麻しん(検査診断例)	4月25日	4月30日	18週	無	無	B3	
20	習志野	男	10歳代	修飾麻しん(検査診断例)	5月8日	5月11日	19週	有	1 有 6	-	県外麻しん患者との接触
21	君津	女	20歳代	修飾麻しん(検査診断例)	5月2日	5月13日	20週	有	1 有 16	-	
22	印旛	女	40歳代	修飾麻しん(検査診断例)	5月8日	5月14日	20週	有	不明	-	渡航・滞在先(ネパール)
23	千葉市	女	30歳代	麻しん(検査診断例)	5月12日	5月20日	21週	不明	不明	-	
24	市川	男	40歳代	修飾麻しん(検査診断例)	5月26日	5月28日	22週	不明	不明	-	
25	市川	女	10歳未満	麻しん(検査診断例)	9月9日	9月19日	38週	無	無	D8	

麻しんは発熱、咳、鼻水や結膜充血などのカタル症状、発疹といった症状を特徴とし、中耳炎、肺炎や脳炎などが合併症として見られることがあり、麻しんは全年齢において深刻な病態を引き起しうる病気である。小児において、中耳炎は小児の患者10人に1人程度で起こり、場合によっては恒久的な聴力の低下を残すことがあり、肺炎はおよそ20例に1例の頻度で見られる。また、脳炎は小児の麻しん患者の1000例に1例の頻度で見られ、場合によっては聴覚障害や知的障害といった後遺症の発生が知られている。麻しんによる死亡は先進国でも1000例に1～2例と少なくなく、発展途上国での致命率は3～5%におよぶことがある。ま

た極めて稀ではあるが、感染から7～10年経過後に発症する亜急性硬化性全脳炎も麻しんの合併症として知られる。

麻しんはワクチンにより感染リスクを最小限に抑えることが可能であり、まずは定期接種の機会に確実に予防接種を受けることが重要である。また予防接種歴が無い、もしくは不明な場合はかかりつけ医と相談の上麻しん含有ワクチン接種の検討と、特に海外への渡航を計画している方、医療従事者、保育関係者、教育関係者、不特定多数の人と接触する職業に従事する方には確実な予防接種が推奨される。また、免疫抑制などでワクチンの接種が不適當に該当する方の周囲においては、必要回数である2回のワクチン接種を受けて、麻しんに対する免疫を獲得しておくことも重要である。